



Cisco UCS Director リリース 6.5 インストールガイド(VMware vSphere および Microsoft Hyper-V 用)

初版: 2017年07月11日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

http://www.cisco.com/jp

お問い合わせ先:シスココンタクトセンター0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)電話受付時間:平日10:00~12:00、13:00~17:00 http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨 事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用 は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに v

対象読者 v

表記法 v

関連資料 vii

マニュアルに関するフィードバック viii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート viii

概要 1

Cisco UCS Director 1

機能と利点 2

物理的および仮想的な管理機能 4

Cisco UCS Director インストレーションガイド 5

ライセンスについて 6

製品アクセスキーの契約履行 7

デジタル署名付きイメージ8

デジタル署名付きイメージの検証の要件 8

デジタル署名付きイメージの検証 9

単一ノードセットアップのアップグレード 10

VMware vSphere への Cisco UCS Director のインストール 11

Cisco UCS Director for VMware vSphere 11

ルート パスワードと Shelladmin のデフォルト パスワード 11

VMware vSphere の前提要件 12

VMware vSphere での単一ノード設定の最小システム要件 12

Cisco UCS Director の Vmware vSphereへのインストール 15

システム リソースの予約 17

Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Director のインストール 19

Cisco UCS Director for Microsoft Hyper-V 19

前提条件 19

Microsoft Hyper-V での単一ノード設定の最小システム要件 20

Microsoft Hyper-V での Cisco UCS Director のインストール 22

Cisco UCS Director の再起動 25

Cisco UCS Director の再起動 25

インストール後の設定 27

管理者パスワードの変更 27

ライセンスの更新 28

ShellAdmin でのネットワーク インターフェイスの設定 28

最大パケットサイズの変更 29

ポート 31

Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用 31

VMware vSphere での Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用 **32**

Microsoft Hyper-V での Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用 33

ポート一覧 33

マルチノードポートの要件 35



はじめに

- 対象読者, v ページ
- 表記法、v ページ
- 関連資料, vii ページ
- ・ マニュアルに関するフィードバック, viii ページ
- マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, viii ページ

対象読者

このマニュアルは、Cisco UCS Director を使用し、以下の少なくとも1つの分野において責任と専門知識を持つデータセンター管理者を主に対象としています。

- ・サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ・ネットワーク セキュリティ
- 仮想化および仮想マシン

表記法

テキストのタイプ	表示
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのようなGUI要素は、[GUI要素] のように示しています。
	ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメイン タイトルは、[メインタイトル] のように示しています。

テキストのタイプ	表示
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体 (Italic) で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナル セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、this fontで示しています。
	CLI コマンド内の変数は、イタリック体 (italic) で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。stringの前後には引用符を使用しません。 引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで 示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



_____ 注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ヒント

「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



ワンポイント アドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。



警告

安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。 各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

関連資料

Cisco UCS DirectorDocumentation Roadmap

Cisco UCS Director の資料の詳細なリストについては、次の URL にある 『Cisco UCS Director Documentation Roadmap』を参照してください。http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/ucs-director/doc-roadmap/b UCSDirectorDocRoadmap.html

[Cisco UCS Documentation Roadmaps]

すべての B シリーズマニュアルの完全なリストについては、『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』 (URL: http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc) を参照してください。

すべての C シリーズ マニュアルの一覧については、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc で入手できる『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。



(注)

『Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap』にはCisco UCS Manager およびCisco UCS Central のドキュメントのリンクが含まれています。『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』にはCisco Integrated Management Controller のドキュメントのリンクが含まれています。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、ucs-director-docfeedback@cisco.comまでコメントをお送りください。ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス リクエストの送信、追加情報の収集の詳細については、『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。

新しく作成された、または改訂されたシスコのテクニカルコンテンツをお手元に直接送信するには、『What's New in Cisco Product Documentation』RSS フィードをご購読ください。RSS フィードは無料のサービスです。

概要

- Cisco UCS Director, 1 ページ
- Cisco UCS Director インストレーションガイド、5 ページ
- ライセンスについて, 6 ページ
- デジタル署名付きイメージ、8 ページ
- 単一ノードセットアップのアップグレード、10ページ

Cisco UCS Director

Cisco UCS Director は、エンドツーエンドの管理やオーケストレーション、自動化に関する、安全性の高い包括的なソリューションです。Cisco や他社の広範なデータインフラストラクチャコンポーネントおよび Cisco UCS と Cisco Nexus プラットフォームに基づく、業界をリードするコンバージドインフラストラクチャソリューションに対応します。サポート対象のインフラストラクチャコンポーネントとソリューションの完全なリストについては、『Cisco UCS Director Compatibility Matrix』を参照してください。

Cisco UCS Director は、次の標準テンプレートを使用する 64 ビットのアプライアンスです。

- Open Virtualization Format (OVF) for VMware vSphere
- Virtual Hard Disk (VHD) for Microsoft Hyper-V

Cisco UCS Director を介した管理

Cisco UCS Director は、Cisco UCS を通じてコンピューティング層およびネットワーク層の統合を拡張し、データ センター インフラストラクチャ コンポーネントの包括的な可視性と管理性を提供します。サポート対象のシスコとシスコ以外のコンポーネントの設定、管理およびモニタのために Cisco UCS Director を使用できます。実行できるタスクには次のものがあります。

すべての Cisco UCS サーバおよびコンピューティング アプリケーションを対象にした、サービス プロファイルとテンプレートの作成、複製、および導入

- コンバージドインフラストラクチャにおける組織の使用状況、トレンドおよび容量の継続的なモニタリング。たとえば、すべてのデータセンター間の仮想マシン(VM)の使用率を示すヒートマップを表示できます。
- 一貫したリピート可能な方法によるコンバージドインフラストラクチャへの容量の導入や追加。
- Cisco UCS ドメインや Cisco Nexus ネットワーク デバイスなどの、データセンター コンポーネントの管理、監視、報告。
- ・物理インフラストラクチャへのサービスを追加するための仮想サービスカタログの拡張。
- 非仮想化ワークロードで動作する仮想化ワークロードに対応するための安全なマルチテナント環境の管理。

Cisco UCS Director による自動化とオーケストレーション

Cisco UCS Director では、自動化サービスを提供するワークフローを構築し、ワークフローを公開して、そのサービスをオンデマンド方式でユーザに提供できます。社内の他のエキスパートと連携して、ポリシーを迅速かつ簡単に作成できます。単純または複雑なプロビジョニングおよび設定プロセスを自動化するための Cisco UCS Director ワークフローを構築できます。

一度構築および検証された後は、これらのワークフローは誰が実行しても常に同じように実行できます。経験豊富なデータセンター管理者がそれらを実行したり、または、ロールベースアクセスコントロールを実行してユーザや顧客が必要に応じてセルフサービスベースでワークフローを実行できるようにすることができます。

Cisco UCS Director を使用して、サポート対象のシスコおよびシスコ以外のさまざまなハードウェアおよびソフトウェアのデータセンターコンポーネント間で多岐にわたるタスクおよび使用例を自動化できます。自動化できる使用例には以下のものがありますが、これらに限定されません。

- VM のプロビジョニングとライフサイクル管理
- ・ネットワーク リソースの設定とライフサイクル管理
- ストレージ リソースの設定とライフサイクル管理
- テナントオンボーディングとインフラストラクチャの設定
- アプリケーション インフラストラクチャのプロビジョニング
- セルフサービス カタログと VM プロビジョニング
- オペレーティング システムのインストールを含むベア メタル サーバのプロビジョニング

機能と利点

Cisco UCS Director の機能と利点を以下に示します。

機能	利点
中央管理	 管理者に物理、仮想、ベアメタル環境全体のシステムをプロビジョニング、モニタリング、管理する単一インターフェイスを提供 統合型ダッシュボード、レポート、ヒートマップを提供し、トラブルシューティングとパフォーマンスのボトルネックを削減
セルフサービスカタログ	・エンドユーザがITの規定したポリシーやガバナンスに準拠して、新しいインフラストラクチャインスタンスの発注および導入が可能
適応型のプロビジョニン グ	・リアルタイムで利用可能な機能、内部ポリシー、アプリケーションワークロード要件を使用して、リソースの可用性を最適化
動的な容量管理	・インフラストラクチャリソースの継続的なモニタリングにより、 リアルタイムでキャパシティプランニング、使用率、管理を改善・使用率の低いリソースや使用率の高いリソースを特定
複数のハイパーバイザの サポート	• VMware ESX、ESXi、Microsoft Hyper-V、Red Hat の各ハイパーバイザをサポート
コンピューティングの管理	 ・物理、仮想、ベアメタルの各サーバおよびブレードをプロビジョニング、モニタリング、管理 ・エンドユーザがスナップショットを介して仮想マシンのライフサイクル管理とビジネス継続性を実現可能 ・管理者にサーバ使用率のトレンド分析を提供
ネットワーク管理	 ・物理スイッチ、仮想スイッチ、動的ネットワークトポロジをポリシーベースでプロビジョニング ・管理者がVLAN、仮想ネットワークインターフェイスカード(vNIC)、ポートグループ、ポートプロファイル、IPおよび動的ホスト制御プロトコル(DHCP)割り当て、アクセスコントロールリスト(ACL)を、複数のネットワークデバイスにわたって設定可能

機能	利点
ストレージの管理	ファイラ、仮想ファイラ (vFiler) 、論理ユニット番号 (LUN) 、 ボリュームをポリシーベースでプロビジョニングおよび管理可 能
	・統合ダッシュボードにより、管理者が組織的な使用状況、トレンド、キャパシティ分析の詳細を包括的に可視性可能

物理的および仮想的な管理機能

物理サーバの管理

- ・設定と変更の検出および収集
- ・物理サーバのモニタリングと管理
- ポリシーベースでのサーバプロビジョニングの実行
- •ブレードの電力管理
- サーバ ライフサイクルの管理
- サーバの使用傾向と容量分析の実行
- Preboot execution Environment (PXE) ブート管理機能を使用したベア メタル プロビジョニングの実行

仮想コンピューティング管理

- 仮想コンピューティング環境の検出、収 集、モニタリング
- ポリシーベースでのプロビジョニングと動 的リソース割り当ての実行
- ホストサーバの負荷と電力の管理
- •VMライフサイクルとスナップショットの 管理
- *VMの容量とスプロール、ホストの使用率 を評価するための分析の実行

物理ストレージの管理

- ストレージファイラの検出、収集、モニタリング
- ポリシーベースでのvFilerプロビジョニングの実行
- ボリュームのプロビジョニングとマッピング
- 論理ユニット番号(LUN)とiGroupインスタンスの作成とマッピング
- SAN ゾーン管理の実行
- Network-Attached Storage (NAS) および SAN ベースのストレージのモニタリング と管理
- ストレージ実装のベストプラクティスと 推奨事項

仮想ストレージの管理

- vFilerのストレージおよびストレージプールの検出、収集、モニタリング
- シックおよびシンクライアントを対象としたポリシーベースでのストレージプロビジョニングの実行
- 新しいデータストアの作成と仮想デバイス コンテキスト(VDC)へのマッピング
- •VM へのディスクの追加とサイズ調整
- 組織でのストレージ使用率のモニタリング と管理
- 仮想ストレージの傾向と容量分析の実行

物理ネットワークの管理

- ・物理ネットワーク要素の検出、収集、モニタリング
- 複数のスイッチ間のプロビジョニング VLAN
- ネットワーク デバイスに対するアクセス コントロール リスト (ACL) の設定
- ストレージ ネットワークの設定
- ・動的ネットワークトポロジの実装

仮想ネットワークの管理

- •VM へのネットワークの追加
- IP および DHCP 割り当てによるポリシーベースでのプロビジョニングの実行
- VLAN およびプライベート VLAN に対する仮想ネットワークインターフェイスカード(vNIC)の設定と接続
- VM のためのポート グループとポート プロファイルの作成
- 組織での仮想ネットワークの使用率のモニタリング

Cisco UCS Director インストレーションガイド

Cisco UCS Director をインストールする前に、次の点に注意してください。

Cisco UCS Director VM ディスク

VMware vSphere または Microsoft Hyper-V のいずれかに Cisco UCS Director をインストール中に、インストーラにより 2 つのハード ディスクが作成されます。

- プライマリ ディスク: Cisco UCS Director アプライアンスとオペレーティング システムが含まれています。インストール後には、このプライマリ ディスクの名前は Hard Disk 1 になります。
- ・セカンダリ ディスク: Cisco UCS Director データベースが含まれています。インストール後には、このセカンダリ ディスクの名前は Hard Disk 2 になります。

両方のディスクは、インストール中に同じディスクフォーマットとパラメータを使用して自動的に作成されます。

Cisco UCS Director OVF および VHD の ZIP ファイル



(注)

Cisco UCS Director OVF および VHD の ZIP ファイルは、CentOS 6.x で zip 3.x を使用して作成されます。Linux システムの場合は、unzip 6.x 以降または最新バージョンの 7-Zip アーカイブツールを使用して zip ファイルを抽出できます。Windows システムの場合、Windows 10 およびWindows Server 2012 では Windows Explorer のネイティブの Extract All、または 7-Zip や WinRARなどの最新バージョンのアーカイブツールを使用して zip ファイルを抽出できます。

ライセンスについて

Cisco UCS Director を使用するには、次の手順に従ってライセンスを取得する必要があります。

- 1 Cisco UCS Director をインストールする前に、Cisco UCS Director ライセンス キーを生成し、証明書(製品アクセス キー)を要求します。
- 2 シスコのソフトウェア ライセンス サイトに製品アクセス キー (PAK) を登録します (製品アクセス キーの契約履行, (7ページ) を参照してください)。
- 3 Cisco UCS Director をインストールした後、ライセンスの更新, (28ページ) の手順に従って、Cisco UCS Director でライセンスを更新します。
- 4 ライセンスが検証されると、Cisco UCS Director の使用を開始できます。

製品アクセス キーの契約履行

はじめる前に

PAK 番号が必要です。

- ステップ1 シスコのソフトウェア ライセンス Web サイトに移動します。
- ステップ**2** [製品ライセンスの登録(Product License Registration)] ページが表示されたら、トレーニングを受けるか、または [製品ライセンスの登録を続ける(Continue to Product License Registration)] をクリックします。
- ステップ**3** [製品ライセンスの登録(Product License Registration)] ページの [PAK またはトークンからの新規ライセンスの取得(Get New Licenses from a PAK or Token)] をクリックします。
- **ステップ4** [契約を履行する単一 PAK またはトークンの入力(Enter a Single PAK or TOKEN to Fulfill)] フィールドに PAK 番号を入力します。
- ステップ 5 [単一 PAK/トークンの契約履行 (Fulfill Single PAK/TOKEN)]をクリックします。
- **ステップ6** PAK を登録するために、[ライセンス情報 (License Information)] でその他のフィールドに情報を入力します。

名前	説明
[組織名(Organization Name)]	組織名。
[サイトの連絡先の名前(Site Contact Name)]	サイトの連絡先の名前。
[組織の番地(Street Address)]	組織の番地。
[市区町村(City or Town)]	市区町村名。
[都道府県(State or Province)]	州/都道府県。
[郵便番号(Zip or Postal Code)]	郵便番号。
[国(Country)]	国名。

ステップ7 [キーの発行(Issue Key)]をクリックします。

ライセンスの機能が表示され、デジタルライセンス契約書とzip圧縮のライセンスファイルが添付された電子メールが届きます。

デジタル署名付きイメージ

Cisco UCS Director イメージは、デジタル署名付き ZIP ファイルとして提供されます。これらの署名付き ZIP ファイルが含まれているコンテナ ZIP ファイルには、次のものが含まれています。

- デジタル署名付き ZIP ファイル: Cisco UCS Director インストール イメージまたはアップグレード イメージが含まれています。
- •検証プログラム:証明書チェーンと署名を検証します。このプログラムは、証明書チェーン の検証時に、シスコの SubCA およびルート CA 証明書を使用して、エンドエンティティ証明 書の信頼性を検証します。その後、認証されたエンドエンティティ証明書を使用して署名が検証されます。
- デジタル署名ファイル: インストールまたはアップグレード前に検証可能な署名が含まれています。
- 証明書ファイル:デジタル署名を検証できるようにします。シスコによる署名付き x.509 エンドエンティティ証明書には、署名の検証に使用できる公開キーが含まれています。この証明書は、http://www.cisco.com/security/pki/certs/crcam2.cer で公開されているシスコルートにチェーンされています。
- ReadMe ファイル: デジタル署名付き ZIP ファイルの検証に必要な情報と手順が記載されています。

イメージをオフラインで検証します。イメージの検証が完了したら、Cisco UCS Director のインストールまたはアップグレードを開始できます。

デジタル署名付きイメージの検証の要件

Cisco UCS Director デジタル署名付きイメージを検証する前に、ローカルマシンに次のものがあることを確認してください。

- 検証プロセス中に https://www.cisco.com へ接続できること
- Python 2.7.4 以降
- OpenSSL

デジタル署名付きイメージの検証

はじめる前に

Cisco UCS Director イメージを Cisco.com からダウンロードします。

- ステップ1 Cisco.com からダウンロードしたファイルを解凍し、このファイルの中に次のファイルが含まれていることを確認します。
 - ReadMe ファイル
 - デジタル署名付き ZIP ファイル(例: CUCSD_6_5_0_0_65365_VMWARE_GA.zip、CUCSD_6_5_0_0_65717_HYPERV_GA.zip、cucsd_patch_6_5_0_0_65365.zip など)
 - ・証明書ファイル (例: UUCS GENERIC IMAGE SIGNING-CCO RELEASE.cer)
 - •イメージに対して生成されたデジタル署名(例: CUCSD_6_5_0_0_65365_VMWARE_GA.zip.signature、 CUCSD_6_5_0_0_65717_HYPERV_GA.zip.signature、 cucsd_patch_6_5_0_0_65365.zip.signature)
 - •署名検証プログラム(例:cisco_x509_verify_release.py)
- ステップ2 ReadMe ファイルに記載されている手順を参照します。
 - (注) ReadMe の手順とこのドキュメントの手順が異なる場合は、ReadMe の手順に従います。
- ステップ3 署名検証プログラムを実行します。

例:アップグレードパッチの署名検証

python cisco_x509_verify_release.py -e UCS_GENERIC_IMAGE_SIGNING-CCO_RELEASE.cer -i cucsd_patch_6_5_0_0_65365.zip -s cucsd_patch_6_5_0_0_65365.zip.signature -v dgst -sha512 例:VMware OVF インストールの署名検証

python cisco_x509_verify_release.py -e UCS_GENERIC_IMAGE_SIGNING-CCO_RELEASE.cer
-i CUCSD_6_5_0_0_65365_VMWARE_GA.zip -s CUCSD_6_5_0_0_65365_VMWARE_GA.zip.signature -v dgst -sha512
例: Hyper-V VHD インストールの署名検証

python cisco_x509_verify_release.py -e UCS_GENERIC_IMAGE_SIGNING-CCO_RELEASE.cer
-i CUCSD 6 5 0 0 65717 HYPERV GA.zip -s CUCSD 6 5 0 0 65717 HYPERV GA.zip.signature -v dgst -sha512

ステップ4 出力を調べ、検証が正常に完了したことを確認します。

例:予期される出力(アップグレード)

Downloading CA certificate from http://www.cisco.com/security/pki/certs/crcam2.cer ... Successfully downloaded and verified crcam2.cer.

 ${\tt Downloading SubCA certificate from http://www.cisco.com/security/pki/certs/innerspace.cer} \dots \\$

Successfully downloaded and verified innerspace.cer.

Successfully verified root, subca and end-entity certificate chain.

Successfully verified the signature of cucsd_patch_6_5_0_0_65365.zip using

UCS GENERIC IMAGE SIGNING-CCO RELEASE.cer

例:予期される出力(VMware OVF インストール)

```
Downloading CA certificate from http://www.cisco.com/security/pki/certs/crcam2.cer ...
Successfully downloaded and verified crcam2.cer.
Downloading SubCA certificate from http://www.cisco.com/security/pki/certs/innerspace.cer ...
Successfully downloaded and verified innerspace.cer.
Successfully verified root, subca and end-entity certificate chain.
Successfully verified the signature of CUCSD_6_5_0_0_65365_VMWARE_GA.zip using
UCS_GENERIC_IMAGE_SIGNING-CCO_RELEASE.cer
例:予期される出力(HYPER-V VHD インストール)

Downloading CA certificate from http://www.cisco.com/security/pki/certs/crcam2.cer ...
Successfully downloaded and verified crcam2.cer.
Downloading SubCA certificate from http://www.cisco.com/security/pki/certs/innerspace.cer ...
Successfully downloaded and verified innerspace.cer.
Successfully verified root, subca and end-entity certificate chain.
Successfully verified the signature of CUCSD_6_5_0_0_65717_HYPERV_GA.zip using
UCS_GENERIC_IMAGE_SIGNING-CCO_RELEASE.cer
```

次の作業

Cisco UCS Director をインストールまたはアップグレードします。

単一ノード セットアップのアップグレード

Cisco UCS Director のアップグレードについては、このリリースの『Cisco UCS Director Upgrade Guide』を参照してください。



VMware vSphere への Cisco UCS Director のインストール

- Cisco UCS Director for VMware vSphere, 11 ページ
- ルート パスワードと Shelladmin のデフォルト パスワード、11 ページ
- VMware vSphere の前提要件、12 ページ
- VMware vSphere での単一ノード設定の最小システム要件, 12 ページ
- Cisco UCS Director の Vmware vSphereへのインストール、15 ページ
- ・ システム リソースの予約, 17 ページ

Cisco UCS Director for VMware vSphere

Cisco UCS Director は、VMware vSphere または vCenter および HyperV Manager でホストできます。



(注)

アプライアンスおよびブートアップ ログは /var/log/ucsd ディレクトリにあります。

- •install.logには、ワンタイムアプライアンスのインストールログが含まれています。
- bootup.log には、データベースやインフラストラクチャ サービスの起動メッセージなどのアプライアンスのブートアップシーケンス情報が含まれています。

ルートパスワードとShelladminのデフォルトパスワード

インストール時に、Cisco UCS Director は次のアカウントのデフォルトパスワードを使用します。

• Cisco UCS Director VM の CentOS オペレーティング システムのルート ユーザ。デフォルトのパスワードは、cisco123 です。

• Cisco UCS Director シェルメニューの Shelladmin ユーザ。デフォルトのパスワードは changeme です。

インストール時には、これらのパスワードの入力は求められません。ただし、インストール完了 後に初めて Cisco UCS Director にログインすると、ルート パスワードと Shelladmin のデフォルト パスワードをリセットするよう求められます。

ルートパスワードと Shelladmin の新しいパスワードは、パスワードの要件を満たしている必要があります。辞書の単語や、すべて小文字にすることはできません。

VMware vSphere の前提要件

Cisco UCS Director for VMware vSphere をインストールする前に、次の手順を実行します。

- VMware vSphere または vCenter をインストールします。
- Cisco UCS Director のシステム管理者権限が付与された VMware vSphere または vCenter のユーザ アカウントを設定します。

VMware vCenter で Cisco UCS Director に接続およびインストールするには、管理者権限が必要です。Cisco UCS Director では、Cisco UCS Director から VMware vCenter の設定を検出、管理、および自動化する際に、システム管理者権限が付与されたユーザ アカウントが必要です。これらの操作には、VM、ESXi ホストおよびクラスタ、データストアおよびデータストアクラスタ、標準/DVスイッチ、そして仮想ネットワークポートグループの作成、削除、および修正が含まれています。

- Cisco.com の [ダウンロードソフトウェア (Download Software)] エリアから Cisco UCS Director ソフトウェアをダウンロードします。
- デジタル署名付き ZIP ファイルから Cisco UCS Director OVF ファイルをローカルディスクに 解凍します。デジタル署名付きイメージ、(8ページ)を参照してください。

VMwarevSphereでの単一ノード設定の最小システム要件

最小システム要件は、管理する VM の数によって異なります。 Cisco UCS Director VM は、最小 I/O 速度 25 Mbps のローカル データストア、または最小 I/O 速度 50 Mbps の外部データストアに導入することを推奨します。



(注)

- •最適なパフォーマンスを実現するために、追加的に CPU リソースとメモリ リソースを予約します。次の表に示す最小システム要件に加え、3000 MHz 以上の CPU リソースと、1 GB 以上のメモリを予約することを推奨します。 Cisco UCS Director VM の CPU 使用率が常に高い場合、vCPU をさらに追加する必要があります。
- Inframgr サービスに必要な最小メモリは、導入時に自動的に設定されます。ただし、inframgr サービス用のメモリを変更する場合は、次の場所を参照して inframgr.env ファイルを編集してください。

/opt/infra/bin/inframgr.env

このファイルでは、「MEMORY_MAX」パラメータを目的の値となるように更新します。このパラメータを変更した後、変更内容を反映するためにサービスを再起動します。デフォルトメモリ設定は、「MEMORY_MIN=6144 m」および「MEMORY_MAX=6144 m」です。

マルチノードセットアップのシステムの最小要件については、『Cisco UCS Director Multi-Node Installation and Configuration Guide』を参照してください。

最大 2,000 台の VM

最大 2,000 台の VM を管理する場合、Cisco UCS Director 環境は、少なくとも次の表のシステムの最小要件を満たす必要があります。

表 1:最大 2,000 台の VM のシステムの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	4
メモリ	16 GB
プライマリ ディスク(Hard Disk 1)	100 GB
セカンダリ ディスク (Hard Disk 2)	100 GB

最大 5,000 台の VM

最大 5,000 台の VM を管理する場合、Cisco UCS Director 環境は、少なくとも次の表のシステムの最小要件および推奨設定を満たす必要があります。

表 2: 最大 5,000 台の VM のシステムの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8

要素	サポートされる最小要件
メモリ	20 GB
プライマリ ディスク(Hard Disk 1)	100 GB
セカンダリ ディスク (Hard Disk 2)	100 GB

表3:メモリの最小設定

サービス	推奨設定	ファイルの場所	パラメータ
inframgr	8192m	/opt/infra/bin/ inframgr.env	MEMORY_MIN
inframgr	8192m	/opt/infra/bin/ inframgr.env	MEMORY_MAX

/etc/my.cnf ファイル内の次の設定を更新する必要があります。

表 4: データベースの最小設定

要素	サポートされる最小設定
thread_cache_size	100
max_connections	1000
innodb_lock_wait_timeout	100
query_cache_size	128 MB
innodb_buffer_pool_size	4 GB
max_connect_errors	10000
connect_timeout	20
innodb_read_io_threads	64
innodb_write_io_threads	64



(注)

/etc/my.cnfファイルを更新して保存した後で、Cisco UCS Director データベースを再起動する必要があります。

パフォーマンスを最適化するには、以下の推奨事項に従ってください。

表 5: 最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8 CPU コア
メモリ	16 GB
IOPS	1200

Cisco UCS Director の Vmware vSphereへのインストール



(注)

OVF 導入には VMware vCenter を使用することを推奨します。 VMware vCenter のバージョン 5.x 以降がサポートされます。 OVF 導入ウィザードは、IPv4 アドレスのみをサポートします。 IPv6 が必要な場合は、IPv4 アドレスを使用して OVF を導入してから、ShellAdmin を使用して IPv6 アドレスを設定します。

はじめる前に

VMware vCenter に接続するには、管理者権限が必要です。Cisco UCS Director では、Cisco UCS Director から VMware vCenter の設定を検出、管理、および自動化する際に、システム管理者権限が付与されたユーザアカウントが必要です。これらの操作には、VM、ESXi ホストおよびクラスタ、データストアおよびデータストアクラスタ、標準/DVスイッチ、そして仮想ネットワークポート グループの作成、削除、および修正が含まれています。



(注)

DHCP を使用しない場合は、IPv4 アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの情報が必要です。

- ステップ1 VMware vSphere クライアントにログインします。
- ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、Cisco UCS Director を導入するデータセンターを選択します。 VM を起動できる十分な vCPU とメモリがあるロケーションを選択する必要があります。 VMware vSphere での単一ノード設定の最小システム要件, (12 ページ) を参照してください。

- ステップ3 [ファイル (File)] > [OVF テンプレートのデプロイ (Deploy OVF Template)] の順に選択します。
- ステップ4 [ソース (Source)] ペインで、次のいずれかの手順で OVF ソース ロケーションを選択します。
 - •[参照 (Browse)]をクリックし、OVFをダウンロードしたロケーションに移動してファイルを選択し、[開く (Open)]をクリックします。
 - FQDN (完全修飾ドメイン名) を、ローカル エリア ネットワーク上で OVF が保存されている場所の URLのパス (IPアドレスまたはドメイン名を含む) に置き換え、[次へ (Next)]をクリックします。
- **ステップ5** [OVF テンプレートの詳細(OVF Template Details)] ペインで、詳細情報を確認して [次へ(Next)] をクリックします。
- ステップ6 [名前とロケーション (Name and Location)] ウィンドウで、次を実行します。
 - a) [名前 (Name)] フィールドでデフォルトの VM 名を編集します。
 - b) [在庫場所 (Inventory Location)] 領域から、Cisco UCS Director が導入されている在庫場所を選択し、 [次へ (Next)]をクリックします。
 - (注) ステップ 2 でデータセンターを選択した場合は、オプション b が使用できないことがあります。
 - c) [次へ (Next)] をクリックします。
- **ステップ7** [リソース プール(Resource Pool)] ペインで必要なホスト、クラスタ、またはリソース プールを選択して、[次へ(Next)] をクリックします。
- ステップ8 [ディスクフォーマット (Disk Format)]ペインで、次のいずれかのオプションを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
 - [シック プロビジョニング(Lazy Zeroed)(Thick Provisioned (Lazy Zeroed))] フォーマット:シック 形式で即座にストレージを割り当てます。これは推奨形式です。すべての Cisco UCS Director パフォーマンス データはこのフォーマットで検証されます。
 - [シック プロビジョニング (Eager Zeroed) (Thick Provisioned (Eager Zeroed))] フォーマット:シック形式でストレージを割り当てます。このオプションを使用してディスクを作成する場合、時間がかかることがあります。
 - [シンプロビジョニング (Thin Provisioned)] フォーマット: データをディスクに書き込むときに、必要に応じてストレージを割り当てます。
 - (注) [シンプロビジョニング (Thin Provisioned)] フォーマットを選択しないことが推奨されます。
- ステップ9 [プロパティ (Properties)]ペインで、次の情報を入力し、[次へ (Next)]をクリックします。
 - [管理 IP アドレス (Management IP Address)]: eth0 に使用する管理 IP アドレス。ネットワークで DHCP を使用している場合、デフォルト値 0.0.0.0 のままにします。
 - [管理 IP サブネット マスク (Management IP Subnet Mask)]: eth0 に使用する管理 IP サブネット マスク。ネットワークで DHCP を使用している場合、デフォルト値 0.0.0.0 のままにします。
 - [ゲートウェイIP アドレス(Gateway IP Address)]
- **ステップ10** [終了準備の完了(Ready to Complete)] ウィンドウで、次の操作を実行します。

- a) 前のペインで選択したオプションを確認します。
- b) [導入後に起動 (Power on after deployment)] をオンにします。 このボックスをオンにしない場合は、導入後に VM を手動で起動する必要があります。
- c) [終了 (Finish)] をクリックします。
- ステップ11 アプライアンスが起動したら、表示されている Cisco UCS Director の管理 IP アドレスをコピーし、サポートされている Web ブラウザに貼り付けて、「ログイン(Login)」 ページにアクセスします。
- ステップ12 [ログイン (Login)] ページでは、ユーザ名の admin とログイン パスワードの admin を入力します。 (注) 初回ログイン後にデフォルトの管理パスワードを変更することが推奨されま

 す
- ステップ13 [管理 (Administration)]>[ライセンス (License)]の順に選択します。
- ステップ14 [ライセンス (License)]ページで、[ライセンス キー (License Keys)]をクリックします。
- ステップ15 [パーソナリティの管理 (Manage Personalities)]をクリックします。
- ステップ16 [パーソナリティの設定(Personality Configuration)] 画面で、必要なパーソナリティを確認します。 必要に応じて、[UCSD] または[ビッグ データ (Big Data)]、あるいはその両方のパーソナリティをオン にできます。
- ステップ17 [送信(Submit)]をクリックします。

システム リソースの予約

最適なパフォーマンスを実現するために、VMware vSphere での単一ノード設定の最小システム要件, (12ページ) に記載されている最小システム要件よりも余裕があるシステム リソースを、Cisco UCS Director 用に予約することをお勧めします。



(注)

システムリソースの予約方法についての詳細は、VMWareのマニュアルを参照してください。

- ステップ1 VMware vCenter にログインします。
- ステップ2 Cisco UCS Director の VM を選択します。
- ステップ3 VM をシャットダウンします。
- ステップ**4** VMware vCenter で [リソース割り当て(Resource Allocation)] タブをクリックして現在のリソース割り当てを表示し、[編集(Edit)] をクリックします。
- **ステップ5** [仮想マシンプロパティ(Virtual Machine Properties)] ペインで、リソースを選択して新しい値を入力することで、リソース割り当てを編集します。
- ステップ6 新しいリソース割り当てが設定されたことを確認します。

システム リソースの予約



Microsoft Hyper-V への Cisco UCS Director のインストール

- Cisco UCS Director for Microsoft Hyper-V, 19 ページ
- 前提条件、19 ページ
- Microsoft Hyper-V での単一ノード設定の最小システム要件、20 ページ
- Microsoft Hyper-V での Cisco UCS Director のインストール、22 ページ

Cisco UCS Director for Microsoft Hyper-V

Cisco UCS Director は、Hyper-V 環境に導入できます。



- SCVMM コンソールではなく、Hyper-V Manager ホストに Cisco UCS Director を導入することをお勧めします。
- ・アプライアンスとブートアップ ログは /var/log/ucsd ディレクトリにあります。 install.logには、ワンタイムアプライアンスのインストールログが含まれています。 bootup.logには、データベースやインフラストラクチャ サービスの起動メッセージな どのアプライアンスのブートアップ シーケンス情報が含まれています。

前提条件

Cisco UCS Director for Microsoft Hyper-V をインストールする前に、次の手順を実行します。

Microsoft System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) をインストールします。
 Hyper-V 環境だけを導入している場合は、Hyper-V ホストに Cisco UCS Director を導入する必要があります。

- Cisco UCS Director に管理者権限が付与されている SCVMM ユーザアカウントを設定します。
- Cisco.com の [ダウンロードソフトウェア (Download Software)] エリアから Cisco UCS Director ソフトウェアをダウンロードします。
- デジタル署名付き ZIP ファイルから Cisco UCS Director VHD と DB ファイルをローカルディスクに解凍します。デジタル署名付きイメージ, (8ページ) を参照してください。

Microsoft Hyper-V での単一ノード設定の最小システム要件

システムの最小要件は、管理する VM の数によって異なります。ローカル データストアでは 25 Mbps 以上の I/O 速度、外部データストアでは 50 Mbps 以上の I/O 速度で Cisco UCS Director VM を 導入することを推奨します。



- 最適なパフォーマンスを実現するために、追加的に CPU リソースとメモリ リソースを予約します。次の表に示す最小システム要件に加え、3000 MHz 以上の CPU リソースと、1 GB 以上のメモリを予約することを推奨します。 Cisco UCS Director VM の CPU 使用率が常に高い場合、vCPU をさらに追加する必要があります。
- Inframgr サービスに必要な最小メモリは、導入時に自動的に設定されます。ただし、inframgr サービス用のメモリを変更する場合は、次の場所を参照して inframgr.env ファイルを編集してください。

/opt/infra/bin/inframgr.env

このファイルでは、「MEMORY_MAX」パラメータを目的の値となるように更新します。このパラメータを変更した後、変更内容を反映するためにサービスを再起動します。デフォルトメモリ設定は、「MEMORY_MIN=6144 m」および「MEMORY_MAX=6144 m」です。

マルチノードセットアップの最小システム要件については、『Cisco UCS Director Multi-Node Installation and Configuration Guide』を参照してください。

最大 2.000 台の VM

最大 2,000 台の VM を管理する場合、Cisco UCS Director 環境は、少なくとも次の表のシステムの最小要件を満たす必要があります。

表 6: 最大 2,000 台の VM のシステムの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	4

要素	サポートされる最小要件
メモリ	16 GB
プライマリ ディスク(Hard Disk 1)	100 GB
セカンダリ ディスク (Hard Disk 2)	100 GB

最大 5,000 台の VM

最大 5,000 台の VM を管理する場合、Cisco UCS Director 環境は、少なくとも次の表のシステムの最小要件および推奨設定を満たす必要があります。

表 7: 最大 5,000 台の VM のシステムの最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8
メモリ	20 GB
プライマリ ディスク(Hard Disk 1)	100 GB
セカンダリ ディスク (Hard Disk 2)	100 GB

表8:メモリの最小設定

サービス	推奨設定	ファイルの場所	パラメータ
inframgr	8192 m	/opt/infra/bin/ inframgr.env	MEMORY_MIN
inframgr	8192 m	/opt/infra/bin/ inframgr.env	MEMORY_MAX

/etc/my.cnf ファイル内の次の設定を更新する必要があります。

表 **9** : データベースの最小設定

要素	サポートされる最小設定
thread_cache_size	100
max_connections	1000

要素	サポートされる最小設定
innodb_lock_wait_timeout	100
query_cache_size	128 MB
innodb_buffer_pool_size	4 GB
max_connect_errors	10000
connect_timeout	20
innodb_read_io_threads	64
innodb_write_io_threads	64



(注)

/etc/my.cnfファイルを更新して保存した後で、Cisco UCS Director データベースを再起動する必要があります。

パフォーマンスを最適化するには、以下の推奨事項に従ってください。

表 10: 最小要件

要素	サポートされる最小要件
vCPU	8 CPU コア
メモリ	16 GB
IOPS	1200

Microsoft Hyper-V での Cisco UCS Director のインストール

はじめる前に

*Hyper-Vのシステム管理者権限が必要です。

- このリリースの Cisco UCS Director を導入するには、Microsoft Windows 2012 または 2012 r2 が必要です。
- ステップ1 Hyper-V ホストにログインします。
- **ステップ2** [スタート (Start)] > [管理ツール (Administrative Tools)] を選択して、[Hyper-V Manager] を開きます。
- **ステップ3** [Hyper-V Manager] ダイアログ ボックスで [アクション(Action)] > [新しい仮想マシン(New Virtual Machine)] を選択します。
- ステップ4 [始める前に (Before You Begin)]ペインで、[次へ (Next)]をクリックします。
- ステップ5 [名前とロケーション (Name and Location)] ウィンドウで、次を実行します。
 - a) [名前 (Name)] フィールドでデフォルトの VM 名を編集します。
 - b) [仮想マシンを別のロケーションに格納する (Store the virtual machine in a different location)] チェックボックスをオンにし、代替ロケーションを指定します。
 - c) [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ**6** [世代の選択 (Select Generation)] ペインで、[世代1 (Generation1)] を選択します。 [世代1 (Generation1)] を選択することにより、この仮想マシンは、Hyper-V の以前のバージョンと同様に、同じ仮想ハードウェアを仮想マシンに提供します。
- ステップ 7 [メモリの割り当て(Assign Memory)] ペインで、この 7 VM に割り当てるメモリの量を入力し(12 GB 以上)、[次へ(Next)] をクリックします。
- ステップ**8** [ネットワーキングの設定(Configure Networking)] ペインで [次へ(Next)] をクリックし、[接続(Connection)] フィールドのデフォルト オプションを受け入れます。 デフォルト オプションは [未接続(Not Connected)] です。
- ステップ**9** [仮想ハードディスクの接続(Connect Virtual Hard Disk)] ペインで、[後で仮想ディスクを接続する(Attach a virtual disk later)] を選択し、[次へ(Next)] をクリックします。
- **ステップ 10** [仮想マシンの新規作成ウィザードの完了(Completing the New Virtual Machine Wizard)] ペインで設定を確認し、[完了(Finish)] をクリックします。
- ステップ11 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、新しいVMを右クリックし、[設定 (Settings)]を選択します。
- ステップ12 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[IDE コントローラー 0 (IDE Controller 0)]を選択します。
- **ステップ13** [IDE コントローラー(IDE Controller)] ペインで、[ハード ドライブ(Hard Drive)] を選択し、[追加 (Add)] をクリックします。
 - (注) OS とアプリケーション用、およびデータベース用に別個の2つのVHDファイルがあるため、 2台のハードドライブを追加する必要があります。

- ステップ14 [ハードドライブ(Hard Drive)] ペインで、ダウンロードした Cisco UCS Director .vhd ファイルを選択して [OK] をクリックします。
- ステップ15 仮想ハード ドライブのプロパティを確認します。
- ステップ16 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[メモリ (Memory)]を選択します。
- **ステップ17** [メモリ (Memory)] ペインで、推奨値(12 GB 以上)を入力します。
- ステップ18 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[プロセッサ (Processor)]を選択します。
- **ステップ19** [プロセッサー (Processor)] ペインで、推奨値 (4 vCPU) を入力します。
- ステップ20 新規 VM の作成時に作成されたネットワーク アダプタを削除します。
- ステップ21 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ハードウェアの追加 (Add Hardware)]を選択します。
- ステップ22 [ハードウェアの追加(Add Hardware)] ペインで、[ネットワーク アダプター(Network Adapter)] を選択して [OK] をクリックします。
- ステップ 23 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、ネットワーク アダプタを選択します。
- ステップ 24 [ネットワーク アダプタ(Network Adapter)] ペインの [ネットワーク(Network)] フィールドで、該当するネットワークを選択して [OK] をクリックします。
- ステップ25 vCPUとメモリのリソースが十分に割り当てられていることを確認します。最小リソース要件については、Microsoft Hyper-V での単一ノード設定の最小システム要件, (20ページ) を参照してください。
- ステップ 26 VM の電源を投入します。

必要に応じて、shelladmin からネットワーク プロパティを設定できます。

このバージョンの Microsoft Hyper-V では、アドレスの割り当てにデフォルトで DHCP が使用されます。 DHCP ではなく静的 IP アドレスを使用するには、Shell Admin を使用してこの設定を変更します。

- ステップ27 アプライアンスが起動されたら、表示された Cisco UCS Director の IP アドレスをコピーして、サポートされている Web ブラウザに貼り付けて [ログイン (Login)] ページにアクセスします。
- ステップ 28 ログイン プロンプトで、ユーザ名として admin、パスワードとして admin を入力して Cisco UCS Director にログインします。
 - (注) 初回ログイン後にデフォルトの管理パスワードを変更することが推奨されます。

次の作業

ライセンスを更新します。



Cisco UCS Director の再起動

この章は、次の項で構成されています。

• Cisco UCS Director の再起動、25 ページ

Cisco UCS Director の再起動

Cisco UCS Director のインストール後にエラーが表示された場合は、セキュア シェル (SSH) クライアントにログインし、サービスが実行されているかどうかを確認します。

- ステップ**1** shelladmin ユーザ クレデンシャルで Cisco UCS Director VM コンソールにログインします。 導入後に初めて ShellAdmin にログインした場合は、デフォルトのパスワードを変更するよう求められます。
- **ステップ2** すべてのサービスのステータスを表示するには、[サービスのステータスを表示 (Display services status)] を選択します。 このオプションが利用できない場合は、SSH を使用してサービスを再起動します。
- ステップ3 次のサービスが表示されることを確認します。
 - 1. broker
 - 2. controller
 - 3. eventmgr
 - 4. idaccessmgr
 - 5. inframgr
 - 6. websock
 - 7. tomcat
 - 8. flashpolicyd
 - 9. mysqld
 - 10. infradb
 - (注) バックグラウンドで開始されるサービスは、このウィンドウに表示されません。

- ステップ4 [サービスの停止 (Stop services)] を選択します。
- ステップ**5** すべてのサービスが停止していることを確認するには、[サービスのステータスを表示 (Display services status)] を選択します。
- ステップ6 サービスを再起動するには、[サービスの開始 (Start services)] を選択します。



インストール後の設定

- 管理者パスワードの変更. 27 ページ
- ライセンスの更新、28 ページ
- ShellAdmin でのネットワーク インターフェイスの設定, 28 ページ
- 最大パケットサイズの変更, 29 ページ

管理者パスワードの変更

最初に Cisco UCS Director にログインした後、デフォルトの管理ユーザ パスワードを変更するように求められます。2回目以降のログイン時に、以下の手順に従って管理ユーザ パスワードを変更することができます。

- ステップ1 [管理 (Administration)]>[ユーザとグループ (Users and Groups)]を選択します。
- ステップ2 [ユーザとグループ (Users and Groups)]ページで、[ユーザ (Users)]をクリックします。
- ステップ3 デフォルトのパスワードを変更する管理ユーザが含まれている行をクリックします。
- ステップ4 [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウンリストから[パスワードの変更 (Change Password)] を選択します。
- ステップ5 [パスワードの変更 (Change Password)]画面で、古いパスワードを入力してから、新しいパスワードを入力し、確認します。
- ステップ6 [保存(Save)]をクリックします。

ライセンスの更新

はじめる前に

圧縮されたライセンスファイルを電子メールで受け取った場合は、展開してライセンス (.lic)ファイルをローカルマシンに保存します。

- ステップ1 [管理 (Administration)]>[ライセンス (License)]の順に選択します。
- ステップ2 [ライセンス (License)]ページで、[ライセンス キー (License Keys)]をクリックします。
- ステップ3 [ライセンスの更新(Update License)]をクリックします。
- ステップ4 [ライセンスの更新(Update License)] 画面で、次のいずれかを実行します。
 - a) ローカル システムから .lic ファイルを削除するか、[ファイルを選択(Select a File)] をクリックして、.lic ファイルを保存した場所に移動します。 ファイルをアップロードする代わりにライセンステキストを入力するには、[ライセンステキストの入力(Enter License Text)] チェックボックスをオンにして、[ライセンステキスト(License Text)] フィールドにライセンステキストを入力します。
 - b) [送信(Submit)] をクリックします。 ライセンス ファイルが処理され、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

ShellAdmin でのネットワーク インターフェイスの設定

この手順は任意です。

- ステップ1 ShellAdmin ユーザ クレデンシャルで Cisco UCS Director VM コンソールにログインします。 導入後に初めて ShellAdmin にログインした場合は、デフォルトのパスワードを変更するように求められます。
- ステップ2 [ネットワークインターフェイスの設定 (Configure Network Interface)] を選択します。
- ステップ3 Do you want to Configure DHCP/STATIC IP [D/S] プロンプトで、次のどちらかを入力します。
 - DHCP が有効である場合、Dを入力します (IP アドレスが自動的に割り当てられます)。
 - スタティック IP を設定するには、S を入力してから、次のプロンプトで設定するインターフェイスを選択します。その後 IPv4 または IPv6 を選択するオプションが表示されます。続いて、選択されたインターフェイスと IPのバージョンの確認が行われます。[Y] を選択して続行します。次の詳細を入力します。

。IP アドレス

- 。ネットマスク
- 。ゲートウェイ
- 。DNS サーバ1 (DNS Server 1)
- 。DNS サーバ 2 (DNS Server 2)

ステップ4 プロンプトが表示されたら、承諾します。

最大パケット サイズの変更

Cisco UCS Director データベース クエリのデフォルトの最大パケット (クエリ) サイズは 4 MB です。より大きいサイズが 1 つ以上のポッドで必要となる場合は、最大パケット サイズの設定を 100 MB に増やすことをお勧めします。たとえば、大きいオープン オートメーション モジュールのインポートには、通常、より大きいパケット サイズが必要となります。



(注)

Multi-Node の設定の場合は、この設定をインベントリデータベース ノードとモニタリング データベース ノードで実行します。

- ステップ1 shelladmin で、[Root でログイン(Login as Root)] を選択して、Cisco UCS Director にログインします。
- **ステップ2** /etc フォルダに移動します。
- ステップ3 my.cnfファイルを開き、max allowed_packetパラメータを探します。
- ステップ4 max allowed packet パラメータの値を max allowed packet=100M に変更します。
- ステップ5 my.cnf ファイルを保存します。
- **ステップ6** shelladmin で、次のように、すべてのノードの Cisco UCS Director サービスを停止して再開します。
 - a) [サービスの停止 (Stop services)] を選択します。
 - b) すべてのサービスが停止していることを確認するには、[サービスのステータスを表示 (Display services status)] を選択します。
 - c) ノードのすべてのサービスが停止した後、[サービスの開始(Start services)]を選択します。

最大パケット サイズの変更



ポート

この付録の構成は、次のとおりです。

- Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用, 31 ページ
- ポート一覧, 33 ページ
- ・マルチノードポートの要件, 35 ページ

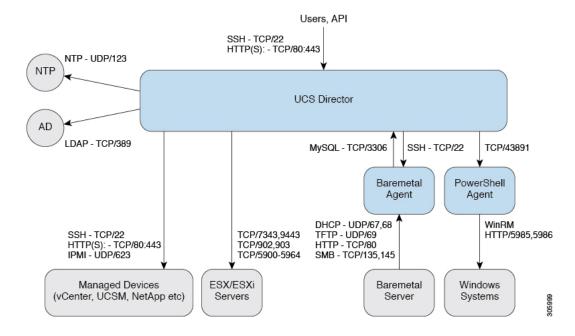
Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用

ここでは、Cisco UCS Director が外部のアプリケーションまたはデバイスとの接続および通信に使用する TCP ポートおよび UDP ポートの一覧を示します。ポートの使用は、Cisco UCS Director をVMware vSphere または Microsoft Hyper-V のいずれに導入しているかに応じて異なります。

VMware vSphere での Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用

次の図に、VMware vSphere にインストールする場合の Cisco UCS Director アプライアンスと管理 対象デバイス、ESX サーバ、ベアメタルエージェント、PowerShell エージェント、NTP、および Active Directory 間の通信に使用するネットワーク ポートを示します。

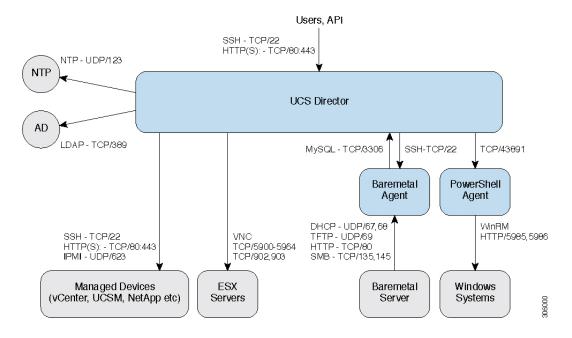
図 1: Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用



Microsoft Hyper-V での Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用

次の図に、Microsoft Hyper-V にインストールする場合の Cisco UCS Director アプライアンスと管理 対象デバイス、ESX サーバ、ベア メタル エージェント、PowerShell エージェント、NTP、および Active Directory 間の通信に使用するネットワーク ポートを示します。

図 2: Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用



ポート一覧

デフォルト ポート	プロトコル	説明
22	ТСР	SSH
80	TCP/UDP	НТТР
443	UDP	HTTPS
27000/7279/8082(管理)	ТСР	Citrix のライセンス
2598/1494/2112/2513	ТСР	デスクトップの仮想デスクトップ エージェント
67/68	UDP	DHCP
389/636	TCP/UDP	Active Directory
3268/3269	ТСР	

デフォルト ポート	プロトコル	説明
53	TCP/UDP	DNS
123	TCP/UDP	NTP
3306	TCP/UDP	MySQL
8787/5900-5964	ТСР	Cisco UCS Director + VNC 接続
3389	TCP/UDP	Cisco UCS Director + RDP 接続
80/443/8080	TCP/UDP	Cisco UCS Director + NetApp 接続
80/443	UDP	Cisco UCS Director + Cisco UCS Manager 接続
80/443	UDP	Cisco UCS Director + vCenter 接続
3389	TCP/UDP	RDP
135/445	ТСР	SMB/RPC
88	TCP/UDP	Kerberos
137	TCP/UDP	NetBIOS 名(nbname)
138	TCP/UDP	NetBIOS データグラム(nbdatagram)
139	ТСР	NetBIOS セッション (nbsession)
80/443	UDP	Desktop Delivery Controller <> vCenter
ICA を介した 8080	ТСР	Desktop Delivery Controller <> 仮想デスクトップ
1494/2598/2512/2513	ТСР	ユーザ(Citrix Recvr)<> 仮想デスクトップ
389/636 (LDAP ポート)	TCP/UDP	Desktop Delivery Controller <> Active Directory
389/636、3268/3269、53	TCP/UDP	仮想デスクトップ <> Active Directory + DNS
5985/5986	TCP	PowerShell エージェント <-> WinRM からの Xendesktop
43891	TCP/UDP	Cisco UCS Director <> PowerShell エージェント
80/8081	ТСР	XenApp
<u></u>	- L	1

デフォルト ポート	プロトコル	説明
902	ТСР	VMwareESXi ホスト管理、VM カスタマイズ、および VIX タスクの実行
903	ТСР	VMwareESXi ホスト管理、VM カスタマイズ、および VIX タスクの実行(5.0 以前の VMware vCenter リリース)

マルチノードポートの要件

Cisco UCS Director TCP および UDP ポートの使用, $(31 \, ^{\sim}- ^{\vee})$ に記載されているポートは、単一ノード設定とマルチノード設定の両方に適用されます。

マルチノード設定の場合、ノード間で次のポートを開いておく必要があります。

- •プライマリ ノードおよびサービス ノードからデータベース ノード:ポート3306
- •プライマリ ノードからサービス ノード:ポート80 および443

マルチノード ポートの要件